



2012.3.31

Annual Report F.Y. 2011 International Institute for Okinawan Studies

2011年度 国際沖縄研究所 所報

目次:

活動概要	1
新しい島嶼学	2
沖縄ジェンダー学	3
H23年度中期計画達成PJ	4
組織図	5
2011年度出版物	6
研究所規則および規定	7

2011年度『所報』発行によせて

国際沖縄研究所所長 我部政明

今、IIOSは創設されてから3歳を迎えます。異なる組織を統合したとはいえ、最初の年のIIOSは、今思うと、それまでの組織の空間つまり母親の胎内と同じような環境がなければ生き延びることはできなかったようです。そして、1歳を迎えて、どうにか自立しなければならぬと自ら考えるようになりました。また、国境をこえて学問を追求できる知的空間としてのIJOSの刊行を始めました。2歳を迎えて、専任教員を確保して初めての研究プロジェクトに着手できました。その成果を世に問えるようになったばかりです。

誕生間もないがエネルギーにあふれるIIOSが、しなやかで凜とした研究成果を出し、沖縄から世界の学問の動向を牽引する存在をめざします。



2011年度活動概要

国際沖縄研究所は、今年度より初めて配置された専任教員と併任教員との両輪で研究活動を展開してきた。研究組織としては、大研究部門「国際沖縄研究部門」のもとに「琉球・沖縄比較研究イニシアティブ」、「環境・文化・社会融合研究イニシアティブ」、「超領域研究イニシアティブ」などの3つから構成されている。

今年度から、文科省特別経費による2つの大型研究プロジェクト「新しい島嶼学の創造—日本と東アジア・オセアニア圏を結ぶ結節点としての琉球弧—」、「沖縄におけるジェンダー学の理論化と学術的实践—沖縄ジェンダー学の創出」にとりかかった。これらの研究事業では、計10回の「国際沖縄研究所レクチャーシリーズ2011」（一般公開）に加え、公開フォーラム2回、国際ワークショップ1回、国際シンポジウム1回、国際フォーラム1回を開催して、成果を世に問うと同時に蓄積を進めてきた。

また、本学の中期目標・中期計画において当研究所に課せられている「特色ある研究の推進」として、今年度の中期計画達成プロジェクト戦略的研究推進経費の支援を得て、「人文・社会科学を主体とした先端的琉球・沖縄学の次世代研究者および地域リーダーの育成・研究推進プロジェクト」に着手した。そこでは、県外や国外の研究者を講演者としてむかえたフォーラムや研究セミナーおよびフィールド調査を主催し、琉球大学島嶼防災研究センターや琉球大学史学会などとの共催イベントを開催した。

これらの研究活動に加え、当研究所では、今年度も継続して国際ジャーナルを発行している。学術誌IJOSは、創刊号以来の年間2号の発刊体制の下で、2011年6月にVol.2, No.1、また2012年3月にVol.2, No.2として刊行され、次第に注目される国際的の評価を得るようになってきた。

さらに、今年度から、これまであった『移民研究』『琉大アジア研究』（先に廃止したOJAS、『島嶼科学』に続き）などの紀要を統合して、レフェリー審査を経て論文掲載が行われる『国際琉球・沖縄論集』の創刊号を刊行することになり、3月に発刊された。

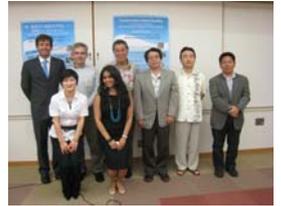
次年度は、国際的な共同研究拠点としての発展に向け、新たな組織体制の創造と運営体制の整備強化を進めてく予定である。



「新しい島嶼学の創造—日本と東アジア・オセアニア圏を結ぶ基点としての琉球弧—」 (概算要求プロジェクト)事業の目的と目標

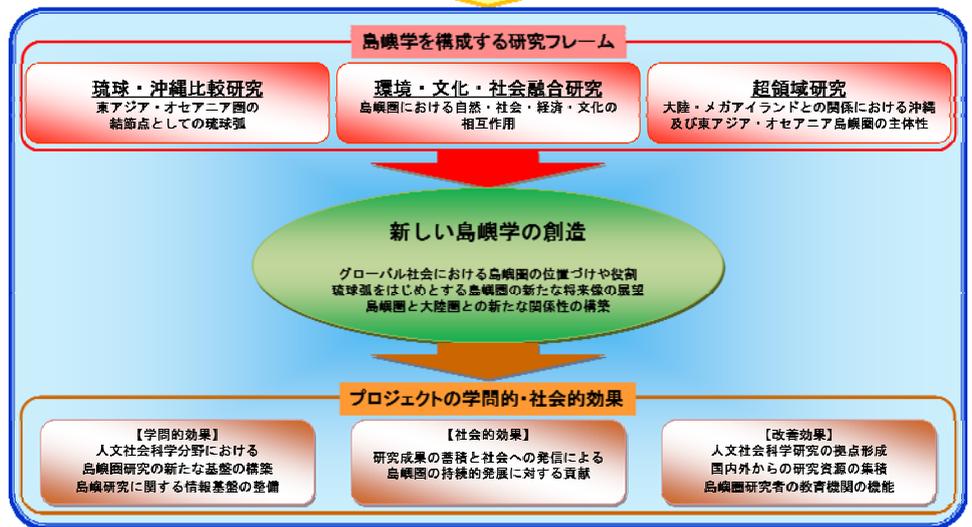
本事業は、アジア太平洋島嶼地域に国際社会の注目が集まる今、東アジア・オセアニア地域と日本との結節点にある沖縄において島嶼圏の持続的発展に資する独創的研究を進め、その成果を沖縄から発信することを目指している。すなわち、グローバル化の中で「周縁」「辺境」と捉えられてきた島嶼圏が個性豊かな主体的存在として自立・

発展するための未来志向の研究を推進し、学術分野から島嶼社会に貢献することを企図する研究事業である。また、5年間の事業期間を通じて諸外国の島嶼研究者あるいは島嶼研究・教育機関との実質的な連携を拡充し、沖縄に島嶼社会研究の国際的拠点的形成することも視野に入れている。



国際ワークショップ「新・島嶼学の創造を目指して」

プロジェクトの背景と目的
 グローバル社会の中での島嶼圏を主体とした新たな世界像の構築
 沖縄からの島嶼圏の自立的・持続的発展に資する独創的研究成果の発信と提言
 沖縄および東アジア・オセアニア島嶼圏における島嶼研究の拡充
 「島嶼学」の確立を目的とした国際的連携に基づく国際的研究拠点の形成



国際社会における
島嶼地域の
存在意義とは何か

島嶼地域の自立と
持続的発展の展望は
どこにあるのか

沖縄をはじめとする
アジア太平洋島嶼社会の諸相を
多角的・学術的に分析し
島々の未来を切り開くための
新たな学問体系の構築を目指す

2011年度の研究活動—目的・内容・成果

初年度は、「新しい島嶼学」の構築を目指して取り組むべき研究課題の抽出を目的に据えた。島嶼地域を巡る多様なテーマに関する講演会・ワークショップ・フォーラム等を企画し、アメリカ（含ハワイ）、ニュージーランド、フィジー共和国、キリバス共和国等、国内外の島嶼関連研究者や最前線で活躍する実務家を講師として招聘し議論を重ねるといった手法を中心に研究活動を展開した。従来の島嶼研究の変遷や成果を踏まえた上での新

な島嶼学の方向性を検討するという包括的なテーマをはじめ、島嶼社会を特徴づける個別の具体的なテーマ（観光と地域づくり、医療と健康、人の移動・経済・開発・環境の間の相互作用、離島振興におけるICT・エネルギー・制度の役割、等）を、足元の沖縄の問題として、あるいは太平洋島嶼圏を巡る国際的課題として再認識し、国内外の最先端の学術的知見や現場の動向などに関する意見交換を行う貴重な機会とした。

今後の計画

本事業は2012年度以降、「組織改革促進」のための事業から「大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実」のための事業に移行することとした。これに伴って『研究情報基盤イニシアティブ』を本事業による取り組みから国際沖縄研究所としての業務に移行し、本事業は『琉球・沖縄比較研究』『環境・文化・社会融合研究』『超領域研究』の3つの研究フレームによる体制へと再構成する。多数の研究者や実務家との1年間にわたる議論を通して、「新しい島嶼学の創造」とは「問題解決型・提案型の学問体系を構築すること」、す

なわち従来の島嶼研究に見られるような現状把握や歴史の再確認にとどまるのではなく、過去と現在を踏まえた上で島嶼社会が将来に向けて目指すべき姿を客観的かつ明確に描き、そのために必要な処方箋を各分野において導出し、可能な限り実践による検証を行うという体系を構築することであると認識するに至った。新たな枠組みの下、引き続き国内外の研究者・研究機関との協働による研究活動を活性化させ、沖縄発の島嶼社会研究の拡充・深化を目指す所存である。

「沖縄ジェンダー学の創出」キックオフイベント～「トラウマとジェンダー」

本プロジェクトは7月に一橋大学教授で医学博士・トラウマ研究の宮地尚子氏のレクチャーでスタートした。「沖縄ジェンダー学」にもかかわらず、なぜ「沖縄」を中心にせず「トラウマとジェンダー」の研究なのか。それは、そこにこのプロジェクトの出発点ともいえる眼差しのあり方が集約されているからである。「トラウマ」を生み出し



「アルゼンチンにおける沖縄系女性の移民体験」

てしまう「性的支配と被支配」の構造をきめ細かく分析し、被支配の立場にさらされてしまった者の声にならない声を想像し、寄り添い、立ち上がろうとする闘いを支援する—それこそが、宮地氏が研究者として、そして臨床医として実践してきたことである。それは本プロジェクトの展望、すなわち、琉球大学が、そして国際沖縄研究所が、これまで沖縄社会で声にならなかった声を聞き届け、沖縄のエンパワメントにつながるような「知」を創出していけるかどうかという展望ともつながる。さらに、従来の学問的枠組みからは周縁化されがちであった「沖縄を主体とする学問的知見」に、学問的説得力を持たせる挑戦という点では、研究拠点としての本研究所そのもののエンパワメントにも関わる。

試行錯誤の
プロジェクト元年
〈整理〉と〈発見〉

多様な争点

本プロジェクトにおける本年度の重点テーマは「沖縄におけるジェンダーの伝統」であったが、GSO (Gender Studies in Okinawa) 元年となる本年は、このように、「ジェンダーの伝統」のみに固執すること



「崎山多美 × 池原えりこ《コトバの生まれる場所 ダイアログIN KOZA》」

なく、様々な場所においてどのようなジェンダー研究が営まれているかという点から、多様な領域の多様なジェンダーの問題に耳を傾けることを試みた。そうすることで、「沖縄ジェンダー学」が既存のジェンダー研究との関係においてどのような

萌芽的側面を表現しうるのかという可能性が探れると考えたからである。平成23年度プロジェクト報告書に示されるように、その成果は多岐にわたった。トラウマ研究、美術工芸、ディアスポラ研究、社会学、司法制度、民俗学、歴史学、文学から、政治的实践に至るまで、ジェンダーは既存のどの研究領域においても必ず争点となる。そして、その議論の起こる場所では、長い時間をかけて固定化された学問の枠を揺らし、時にはその枠を広げ、またあるときにはその枠そのものを切り崩そうとする言説が、萌芽の時を待っている。本年度の報告書から、そうした言説の可能性を感じ取ってもらえるのではないかと思う。

「沖縄におけるジェンダーの伝統」～国際ワークショップ

年度末には、本年度の重点テーマである「ジェンダーと伝統」について国際ワークショップを行い、国際沖縄研究所から4名、海外は米国ニューメキシコ大学2名、台湾師範大学1名、インドのガウハティ大学1名の計8名が発表した。沖縄側の研究者にとっては「ジェンダー」を中心にする視座への挑戦となったはずだが、それぞれが長年求めてきた専門分野の事例研究から「沖縄的」ジェンダー観を理論化するヒントも垣間見えてきた。また、海外からの参加者は、それぞれが「国家」との関係の中で周縁化されてきた地域の出身であり、コロナアルな状況の中でいかに先住民、特に女性たちが自らの行為主体性を存続させる闘いを続けてきたかという問題意識を共有することができた。2日間の議論から、女性への抑圧は、「伝統」の要素よりもむしろ先住民の伝統を破壊しようとする外的権力に起因する場合もあるのだという

ことがわかってきた。同様の方向性で、来年度はIIOSの2つの事業とハワイ大学との合同シンポジウムを開催するが、友好親善の域を超えた国際的学術交流ネットワークの構築を図ることによって、本年度の成果をさらに発展させる機会にしていけるように努める。



「土着の伝統における女性とジェンダー～記憶の再継承」

2011年度中期計画達成プロジェクト：人文・社会科学を主体とした先端的琉球・沖縄学の次世代研究者および地域リーダーの育成・研究推進プロジェクト

(1)「新しい島嶼学の創造」(5年間)、(2)「沖縄におけるジェンダー学の理論化と学術的実践」(5年間)の2つのプロジェクトの開始に伴い、これらのプロジェクト型研究と有機的に関連するものとして、本学の中期計画達成プロジェクトに応募したのが、当「人文・社会科学を主体とした先端的琉球・沖縄学の次世代研究者および地域リーダーの育成・研究推進プロジェクト」のテーマである。琉球・沖縄学を担う次世代の若手研究者などの育成の必要性に鑑みてのことである。

本プロジェクトは6年間におよぶものであり、初年度にあたる2011年度の計画は次のようなものとして企画された。



シンポジウム「言語接触から見た前近代の琉球社会」

I：次世代若手研究者育成・研究プログラムの実施

I：次世代若手研究者育成・研究プログラムを中心に実施する。主に、人文・社会科学分野(琉球沖縄に関する政治・経済・歴史・人類学・文学等の領域)の最新かつ先端のセミナー、フォーラム等を実施する。

(a)次世代若手研究者育成セミナー：大学院生あるいはオーバードクター、助教などの若手研究者を主体に約1週間の集中セミナー、あるいは現地調査を伴うセミナーを行う。

(b)琉球・沖縄学に関する先端研究フォーラム：第一線の研究者による先端テーマについて連

続して開催する(島嶼地域における自然災害論、生存戦略等に関する琉球沖縄研究の現状と課題等)。



近世琉球村落史研究セミナーフィールド調査

これからの
琉球・沖縄学を背負う
人材の育成

以上の企画のもとに初年度のフォーラム、シンポジウム、講演会等は次のように実施された。

①フォーラム「伝承から防災を考える—足元の災害を見つめ直す」：講師・笹本正治氏(信州大学副学長)、日時：2011年10月28日。場所：琉球大学50周年記念館。

②若手研究者育成セミナー「久高島に学ぶ歴史・伝承・文化」：講師・赤嶺政信氏(本学法文学部)、日時：10月29日、場所：南城市久高島。

③若手研究者育成セミナー「近世琉球村落史研究セミナー、八重山の現地調査からの現状と展望」、日時：11月17日～20日。場所：竹富島および石垣島。

④フォーラム「災害をめぐる歴史・社会・文化—琉球・沖縄の視点から—」(琉大史学会との共催)、日時：12月10日、場所：琉球大学法文学部。

⑤フォーラム「言語接触から見た前近代の琉球社会」(高良倉吉科研「近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究」との共催)、日時：12月23日、場所：沖縄県立博物館講座室。

⑥若手研究者育成セミナー「琉球絵図・図像研究セミナー」、日時：2012年1月7日。場所：沖縄県立博物館講座室。

⑦若手研究者育成セミナー「消滅危機言語としての琉球語研究の意義と目的」、日時1月21日～22日、場所：琉大50周年記念館。

初年度、しかも実際には半年の期間であったにもかかわらず、言語学、歴史学、考古学、民俗学、図像学などの学問に関わる若手研究者育成セミナーを4回、及び上記学問の第一線で活躍される研究者を招いてのフォーラムを3回、開催することができた。

特に⑦、「消滅危機言語としての琉球語研究の意義と目的」では、国内外の研究者を招き、若手研究者8名の発表を含む、13名に研究発表を二日間に渡って行ってもらった。本セミナーは内容も多岐にわたり、かつ中期計画達成プロジェクトの若手研究者へ刺激を与えるという目的を達成することができた。次年度でのさらなる発展が見込める企画である。詳細に関しては当研究所発行の報告書を参照されたい。

その他のイベントでも、若手研究者を帯同し現地調査を行う②「久高島に学ぶ歴史・伝承・文化」、③「近世琉球村落史研究セミナー、八重山の

現地調査からの現状と展望」のセミナーは、同種の内容のセミナーを多くの場所で行う必要性を感じるものとなった。史料からも読み取ることのできる歴史状況を、実際に現場に赴き考え、そこから新たな解釈を導くという方法は、特に若手研究者の知見の裾野を広げる上で重要な方法となることが明らかとなった。

⑥「琉球絵図・図像研究セミナー」は、まだその端緒についたばかりといえる研究分野を発展、推進させるため行われたセミナーである。同テーマに関心を持つ研究者を全国から集め、研究発表を行ってもらった。そしてそのうえで全体討議を行った。会場にも関連する研究者が多く集まり、盛んな議論が交わされた全体討議となった。

また2011年3月11日の東日本大震災を受け、災害史の重要性が指摘されている昨今、信州大学副学長笹本正治氏を招き講演していただいた、①「伝承から防災を考える—足元の災害を見つめ直す」と、岡山大学倉地克直教授、奄美史文化財保護審議会弓削政己会長を当研究所で招聘した④「災害をめぐる歴史・社会・文化—琉球・沖縄の視点から—」の試みは、沖縄からという問題提起が行えたものとなった。

「言語接触から見た前近代の琉球社会」(高良倉吉科研「近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究」との共催)は神戸女学院大学真栄平昭教授および琉球大学の教員3名による発表と、若手研究者3名の研究発表を行い、当該テーマの進展に寄与できた。

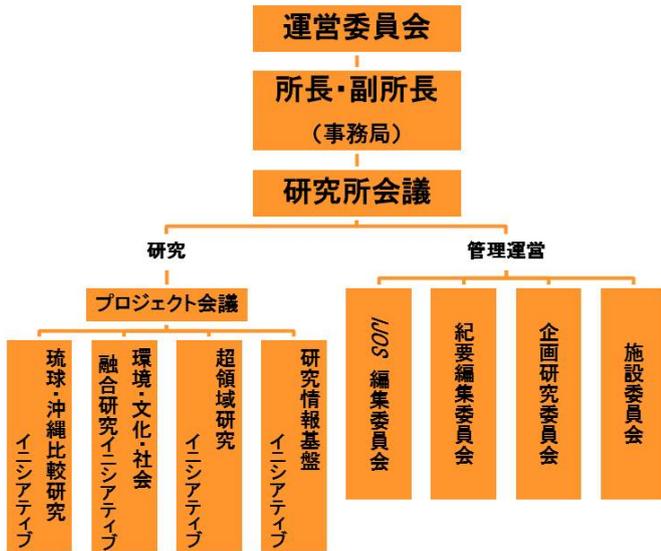
なお⑦以外のイベントに関しても、別冊の「成果報告書」を発行した。講演、シンポジウムの模様や、発表要旨が掲載されたものとなっている。

本年度(初年度)の成果をもとに、次年度以降においても、より一層若手研究者の育成と新たな研究テーマの開拓を目指す予定である。

II：地域リーダー育成プログラム(次年度から展開へ向けての諸準備を行う。

2011年度 国際沖縄研究所 組織図

教員リスト



運営委員会委員一覧

	氏名	所属部局	職名
1号委員 委員長	我部 政明	国際沖縄研究所(併)	研究所長
2号委員	豊見山 和行	国際沖縄研究所(併)	副研究所長
3号委員	喜納 育江	国際沖縄研究所	専任教員・教授
3号委員	藤田 陽子	国際沖縄研究所	専任教員・准教授
4号委員	宮平 勝行	法文学部	教授
"	片岡 淳	教育学部	教授
"	池田 譲	理学部	教授
"	當間 孝子	医学部	教授
"	宮城 隼夫	工学部	教授
"	仲間 勇栄	農学部	教授

IJOS 編集委員会

	氏名	所属部局	職名
編集長	狩俣 繁久	法文学部	教授
編集委員	喜納 育江	国際沖縄研究所	教授
"	Timothy Kelly	外国語センター	特命教授
"	豊見山 和行	教育学部	教授

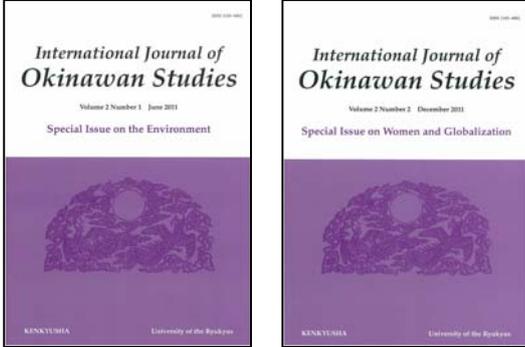
紀要編集委員会

	氏名	所属部局	職名
編集長	石原 昌英	法文学部	教授
編集委員	狩俣 繁久	法文学部	教授
"	藤田 陽子	国際沖縄研究所	准教授
"	宮内 久光	法文学部	教授

	氏名	所属部局	職名	専門
所長(併)	我部 政明	法文学部	教授	国際関係論
副所長(併)	豊見山 和行	教育学部	教授	琉球史 アジア海域史
専任	喜納 育江	国際沖縄研究所	教授	アメリカ文学 ジェンダー研究
専任	藤田 陽子	国際沖縄研究所	准教授	環境経済学
併任	赤嶺 政信	法文学部	教授	民俗学 文化人類学
併任	赤嶺 守	法文学部	教授	東洋史
併任	安藤 徹哉	工学部	准教授	都市計画 地域計画
併任	池田 栄史	法文学部	教授	考古学
併任	石原 昌英	法文学部	教授	言語政策 社会言語学
併任	上江洲 榮子	教育学部	教授	栄養生理学
併任	梅村 哲夫	観光産業科学部	教授	応用経済学
併任	大島 順子	観光産業科学部	准教授	環境教育 地域研究
併任	大城 学	法文学部	教授	琉球芸能
併任	狩俣 繁久	法文学部	教授	日本語学 琉球語学
併任	金城 宏幸	法文学部	教授	外国語教育 言語社会学
併任	Kelly Timothy	外国語センター	特命教授	言語学
併任	島袋 純	教育学部	教授	ローカルガバナンス
併任	鈴木 規之	法文学部	教授	国際社会学
併任	砂川 元	大学院医学研究科	教授	外科系歯学
併任	高良 鉄美	大学院法務研究科	教授	憲法学 比較憲法学
併任	津波 高志	法文学部	教授	文化人類学
併任	等々力 英美	大学院医学研究科	准教授	疫学 公衆衛生学
併任	仲間 勇栄	農学部	教授	森林政策学
併任	中村 透	教育学部	教授	作曲 音楽総合論
併任	野入 直美	法文学部	准教授	社会学
併任	古川 卓	保健管理センター	教授	臨床心理学
併任	前門 晃	法文学部	教授	地形学・自然地理学 岩石制約論
併任	町田 宗博	法文学部	教授	人文地理学
併任	宮内 久光	法文学部	教授	人文地理学 島嶼の地理学
併任	本村 真	法文学部	准教授	児童福祉 トラウマ理論
併任	矢野 恵美	大学院法務研究科	准教授	刑事法・北欧法 被害者学
併任	山里 勝己	法文学部	教授	アメリカ文学 文化接触論
併任	山城 新	法文学部	准教授	アメリカ文学 環境思想史

2011年度研究成果<出版物>

IJOS: International Journal of Okinawan Studies Volume 2 Number 1 & Volume 2 Number 2



IJOS投稿規定は[こちら](#)
IJOS Submission Guidelines

国際琉球沖縄論集 創刊号 International Review of Ryukyuan and Okinawan Studies Number 1



国際琉球沖縄論集投稿規定は[こちら](#)

Rikka, Uchinaa-nkai!

英語を第一言語にする沖縄県系人を対象に作成したウチナーグチ(沖縄語)の入門的なテキストと、ポルトガル語を第一言語にする沖縄県系人を対象に作成したウチナーグチ(沖縄語)の入門的なテキスト。ことばだけでなく文化や歴史事項も織り込まれている。



Contents	
Preface	ii
Acknowledgements	iii
Lesson 1 Tinsagu-nu Hana Orthography and Pronunciation	1
Lesson 2 Chaabira Self introduction (1)	6
Lesson 3 Hajimiti wuganahira Self introduction (2)	10
Lesson 4 Kuree nuu yaibii-ga? Yoibin and yaibiga? Sentences	14
Lesson 5 Kumu yashee-ya muu yaibiga? Nuu question sentences	19
Lesson 6 Ammuchoe chassa yaibiga? Chassa question sentences	24
Lesson 7 Unju-nu shimaa maa yaibiga? Maa question sentences	30
The Map of Okinawa Main Island	34
Lesson 8 Maanu mun yaibiga? Maanu mun & taamun questions	38
Lesson 9 Kuri-n gurukun yaibii-mi? Yes or no questions (1): mi?	42
Lesson 10 Kurin kachuu yaibii-naa? Yes or no question (2): naa?	45
Lesson 11 Basanaree maa-nkai aibiga? Aibin sentences	49
Lesson 12 Yaaninjo ikutai wuubiga? Wuubin sentences	53
Lesson 13 Masashisanoo wuubim? Wuubin sentences (2): Location	57
Lesson 14 'Yaaya nuu kamaga? Verb (1): -mun, -bun, -sun	61
Lesson 15 Kumu basoo maankai ichabiga? Verb (2): -jun, -chun	66
Appendixes	
Okinawan Sounds	71
Verb Conjugation Quick Chart	72
Numbers	73
Place and Family Names	74
Indexes	
English-Okinawan Glossary	75
English-Okinawan Expressions	82
References and Resources	85
Contact	85



Índice	
Prefácio	ii
Lição 1 Tinsagu nu Hana Ortografia e Pronúncia	1
Lição 2 Chaabira Autoapresentação 1	7
Lição 3 Hajimiti wuganahira Autoapresentação 2	11
Lição 4 Kuree nuu yaibii-ga? As expressões 'yaibin' e 'yaibiga'?	16
Lição 5 Kumu yashee-ya nuu yaibiga? Interrogativas Ga (1): Nuu	22
Lição 6 Ammuchoe chassa yaibiga? Interrogativas Ga (2): Chassa	29
Lição 7 Unju-nu shimaa maa yaibiga? Interrogativas Ga (3): Maa	36
Lição 8 Maa-nu mun yaibiga? Interrogativas Ga (4): Maa-nu mun/ taamun	45
Lição 9 Kuri-n gurukun yaibii-mi? Interrogativas Sim/Não (1): mi?	51
Lição 10 Kuri-n kachuu yaibii-naa? Interrogativas Sim/Não (2): naa?	55
Lição 11 Basanaree maa-nkai aibiga? Sentenças Aibin	59
Lição 12 Yaaninjo ikutai wuubiga? Sentenças Wuubin	63
Lição 13 Masashisanoo wuubim? Sentenças Wuubin (2): Localização	68
Lição 14 'Yaaya nuu kamaga? Verbos (1): -mun, -bun, -sun	72
Lição 15 Kumu basoo maankai ichabiga? Verbos (2): -jun, -chun	78
Apêndices	
Sons do okinawano	83
Verbos	84
Numerais	85
Nome de lugares e sobrenomes	86
Glossário Okinawano-Português	87
Lista de Expressões Português-Okinawano	94
Referências bibliográficas	97

『故郷』のトポロジー

～場所と居場所の環境文学論』

言葉のない場所に言葉を、
生命のない場所に生命を感じとる…。

アメリカ先住民やチカーノ、日系アメリカ人、そして沖縄の民らの表現を媒介に、重層化する彼らの《アイデンティティ》を問い、そして他者へと開かれてゆく、清冽な文学論

国際沖縄研究所専任教員:喜納育江著
(水声社 2011年7月)



国際沖縄研究所規則および規定

琉球大学国際沖縄研究所規則

(平成21年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 琉球大学に、学内共同利用施設として、琉球大学国際沖縄研究所(以下「研究所」という。)を置く。

(目的)

第2条 研究所は、沖縄及び沖縄に関連する分野の研究と研究プロジェクトを推進し、国際的な研究拠点として、沖縄に関する相互理解に貢献することを目的とする。

(業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。
共同研究プロジェクトの企画・立案及び推進に関すること。
国際的、総合的、学際的及び文理融合型の研究プロジェクトの推進に関すること。
社会連携、社会貢献に関する研究プロジェクトの推進に関すること。
国内外の研究機関等との共同研究及び研究交流の推進に関すること。
その他研究所の目的を達成するための必要な業務

2 前項の研究プロジェクトは、学問的、社会的、地域的な必要性に応じて、不断に見直しを行う。

(職員)

第4条 研究所に次の職員を置く。
研究所長
副研究所長
研究所の専任教員
その他必要な職員

2 前項に掲げる者のほか、研究所に客員研究員及び協力研究員(外国人を含む。)を置くことができる。

(研究所長及び副研究所長)

第5条 研究所長は、研究所の業務を掌理する。
2 研究所長は、「施設等の長の選考に関する申合せ」(平成18年2月20日役員会決定)に基づき、学長が指名する。
3 副研究所長は、研究所長を補佐する。
4 副研究所長は、本学の教授又は准教授のうちから研究所長の推薦に基づき学長が任命する。
5 研究所長及び副研究所長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
6 研究所長が欠けたときは、次の研究所長が任命されるまで、副研究所長が代行する。

(運営委員会)

第6条 研究所に、研究所の管理運営に関する重要事項を審議するため、研究所運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。
2 運営委員会の組織及び運営については、別に定める。

(併任教員)

第7条 研究所は、第3条の業務を行うため併任教員を置くことができる。
2 併任教員は、本学の教授、准教授又は講師のうちから研究所長の推薦に基づき学長が任命する。
3 併任教員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(研究所会議)

第8条 研究所に、専門的な研究事項を協議するため、研究所会議を置く。
2 研究所会議の組織及び運営については、別に定める。

(庶務)

第9条 研究所の庶務は、学術国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、研究所の運営に関し必要な事項は、学長の承認を得て、研究所長が別に定める。

(改廃)

第11条 この規則の改廃は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

附則

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
2 琉球大学アジア太平洋島嶼研究センター規則(平成14年1月22日制定)、琉球大学アメリカ研究センター規則(平成14年10月22日制定)、琉球大学移民研究センター規則(平成15年11月4日制定)琉球大学法文学部附属アジア研究施設規程(平成6年1月19日制定)は、廃止する。

附則 (平成23年4月26日)

1 この規則は、平成23年4月26日から施行し、平成23年4月1日から適用する。
2 この規則の施行日前に、現に併任教員である者及び改正後の第7条第2項の規定により最初に任命された併任教員の任期は、改正後の第7条第3項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

琉球大学国際沖縄研究所運営委員会規程

(平成21年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、琉球大学国際沖縄研究所(以下「研究所」という。)規則第6条第2項の規定に基づき、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。
研究所の管理運営に関すること。
研究所の事業計画に関すること。
研究所の教員人事(教員選考に係る部分を除く。)に関すること。
その他研究所に関する事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
研究所長
副研究所長
研究所の専任教員
各学部(ただし、観光産業科学部は除く。)から選出された教員各1人
学外の学識経験者のうちから研究所長の推薦に基づき学長が委嘱する者若干人

2 前項第5号の委員は、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第4号及び第5号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、第3条第1項第1号に規定する委員をもって充てる。
2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
3 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
2 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 運営委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 運営委員会に、専門事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、学術国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、運営委員会に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て研究所長が別に定める。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附則 (平成23年3月29日)

1 この規程は、平成23年3月29日から施行し、平成23年4月1日から適用する。
2 この規程の施行日前に、運営委員会規程第3条第1項の規定に基づき任命された委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

International Institute for Okinawan Studies
琉球大学 国際沖縄研究所

Address: 1 Senbaru, Nishihara, Okinwa 903-0213 JAPAN

住所: 〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地

TEL & FAX: 098-895-8475

E-mail: iios@w3.u-ryukyu.ac.jp